

◆◆特集◆◆

★国土交通省物流政策推進本部会合（第1回）の開催について★

（総合政策局物流政策課 / 道路局企画課道路経済調査室）

本年7月に、国土交通省の所掌事務に係る物流に関する施策を総合的かつ一体的に推進するため、「国土交通省物流政策推進本部」の第1回会合が開催された。

本稿においては、その概要等を紹介する。

◆◆道路法令Q&A◆◆

★都市再生特別措置法の一部を改正する法律等による
食事施設等の占用の取扱いについて★

（国土交通省 道路局 路政課）

都市再生特別措置法の一部を改正する法律等による食事施設等の占用の取扱いについて解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★オフィス街ロードクリーン2012★

（国土交通省 道路局 国道・防災課）

平成24年8月7日（火）、霞が関及び虎ノ門に勤務されている方々のボランティアにより、勤務地周辺の国道・都道・区道を清掃する「オフィス街ロードクリーン2012」を実施しました。

当日は、約1,050名の方々にご協力をいただき、歩道の清掃を行った結果、4.5m³余りのゴミや枯葉、雑草を回収しました。

.....

★自転車レーン社会実験（国道385号）★

（福岡市 道路下水道局 計画部 自転車課）

身近な乗り物である自転車の役割が増大するなか、歩行者と自転車の交通事故が急増しています。また、自転車は「車両」であり車道通行が原則との通達を警察庁より改めて受けたことから、車道部における自転車通行空間整備について、車道を通行する自転車の安全性や道路構造について自転車レーンを設け、社会実験を実施しました。

本稿では、実験概要について報告します。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★沖縄地区鋼橋塗装マニュアル検討委員会活動報告★

(内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課)

橋梁の長寿命化は、今後の維持管理費の増加を抑制するための重要な課題であり、塩害環境または腐食環境の厳しい沖縄において、鋼橋の長寿命化を実施する上で防食技術の向上は避けては通れない重要な取組み事項です。

沖縄総合事務局では、塩害の厳しい沖縄の鋼橋塗装に関し、より効果的な維持管理を行うため、沖縄地区鋼橋塗装マニュアル検討委員会（以下「委員会」という。）を開催しています。

本稿では、委員会の活動状況をご紹介します。

.....

★和歌山県の道路管理★

～水害被害からの復旧・復興、協働による維持管理、

橋梁長寿命化修繕計画、道路情報提供システムの改良～

(和歌山県 県土整備部 道路局 道路保全課)

平成 23 年 9 月に発生した紀伊半島大水害による被害からの復旧・復興をはじめとし、和歌山県での道路管理に関する取組み事例を紹介する。

.....

★平成 23 年台風 12 号災害の被災状況について★

(和歌山県 田辺市)

平成 23 年 7 月、台風 6 号の暴風雨により、市の公共土木施設では、地すべり災害が発生するなどの被害に見舞われました。梅雨や台風 6 号豪雨の一連の降雨で地盤が緩んでいる状況のなか、平成 23 年 0 月、台風 12 号の長時間に渡る大雨が発生し、更なる被害が発生しました。本稿では、台風 12 号災害の被災状況及び復旧に向けた取組を紹介します。

◆◆編集後記◆◆

友人から、きらびやかな夜景の写真が届きました。

2つの島に囲まれた湾を取り囲むようにそびえ立つ、高層ビル群の色とりどりのイルミネーションは“美しい”の一言に尽きます。ふと、この明かりが全て消えたら・・・と考えていたところ、このような明かりを消すイベントが世界的に取り組まれていることを知りました。みなさんご存知でしたか？

このイベントは“キャンドルナイト”と称し、現代社会のライフスタイルについて考え直すとともに、時間のあり方や過ごし方などについて見つめ直すきっかけとするため、2003年より取り組まれています。毎年、夏至・冬至の日の夜8時から10時までの2時間「でんきを消してスローな夜を」をスローガンに“キャンドル”を灯し、いつもと違った時間の過ごし方をしてみようというイベントです。このイベントの趣旨に賛同すれば、誰でも参加することができます。

また、あわせて、環境省でも日本全国のタワーや城郭などの観光名所や家庭の照明を消すように呼びかける「Co2削減／ライトダウンキャンペーン」を実施しているため、夏至の日の夜、実際にライトダウンされた様子を目にした方も多いのではないのでしょうか。

夏至の日の夜ではありませんでしたが、キャンドルナイトを自宅で実践してみようと、1人1本のキャンドルを準備し、電化製品を全てオフにした部屋に集まってみました。あまりにも暗いので怖くなり、加えて空調の止まった部屋は蒸し風呂状態になってしまい、実際にライトダウンされる時間である2時間のスローな夜を過ごすつもりが、わずか10分ほどで終了。100本のキャンドルを準備していれば、蛍光灯(60ワット)1本分の明るさになったみたいですが・・・。

普段、いかに明るい照明や電気に頼って生活することに慣れているかを気づかされた夜となりました。

これまで、キャンドルといえば、誕生日会のケーキや非常時の備蓄品としてしか利用していませんでしたが、キャンドルのもつ幻想的で暖かみのある灯りには、人の身体と脳をリラックスさせる効果があるようです。

次回のイベントは冬至。冬至のイベントの前に、100本とはいかずとも、少し多めのキャンドルを準備して、夏の疲れを癒すべくスローな夜を過ごしてみたいと思います。(K)